

第12回

淡海の川づくりフォーラム

プログラム & 選考用資料



日時：平成31年(2019年)2月3日(日) 9:30~16:30 (受付 9:10より)

場所：滋賀県危機管理センター 1階 各会議室

主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会 / 滋賀県

後援：滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会

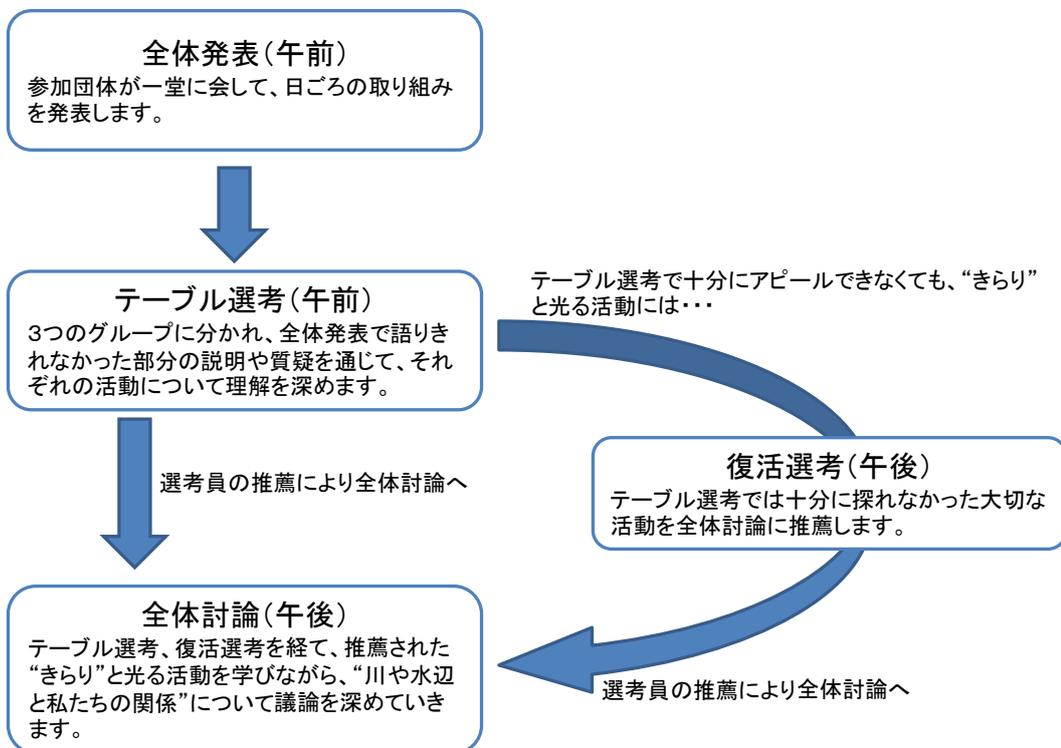
目次

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要.....	1
2. 大会プログラム.....	2
3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について.....	3
(1) 「公開選考会」の意味.....	3
(2) 公開選考会の進め方について.....	3
(3) 選考基準.....	4
(4) ポスターセッション.....	5
(5) 表彰.....	5
4. 参加団体一覧・テーブル.....	6
5. テーブル別各団体活動位置図.....	7
6. テーブル選考 選考員プロフィール（五十音順）.....	9
テーブルA.....	9
テーブルB.....	10
テーブルC.....	11
7. 全体討論 選考員.....	12
8. 総合コーディネーター・コメンテーター&実行委員会.....	13
9. 参加団体活動概要.....	15
A-1 滋賀大学「環境学習支援士」会.....	15
A-2 「小さな自然再生」研究会.....	16
A-3 NPO法人瀬田川リバプレ隊.....	17
A-4 琵琶湖河川レンジャー 根木山恒平.....	18
A-5 玉ーアクアリウム.....	19
B-1 TANAKAMI こども環境クラブ.....	20
B-2 立命館守山中学校・高等学校 Sci-Tech 部.....	21
B-3 NPO 法人国際ボランティア学生協会.....	22
B-4 治水利水から学ぶ・楽しむ実行委員会.....	23
B-5 中ノ井川にホテルを.....	24
C-1 近江八幡市立馬淵小学校 4年生.....	24
C-2 滋賀県立守山高等学校（SGH 課題研究チーム）.....	26
C-3 大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa.....	27
C-4 淡海を守る釣り人の会.....	28
C-5 地球研・栄養循環プロジェクト、小佐治環境保全部会.....	29
10. 日本一のびわ湖を守るご当地キャラ三人衆（五十音順）.....	30
MEMO 欄.....	30
.....	31

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要

淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

- 日時 : 平成 31 年 (2019 年) 2 月 3 日 (日) 9:30~16:30 (受付 9:10 より)
- 場所 : 滋賀県危機管理センター 1 階 各会議室
- 主催 : 淡海の川づくりフォーラム実行委員会/滋賀県
- 後援 : 滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会



淡海の川づくりフォーラムは、マザーレイク 21 計画に基づくマザーレイクフォーラムとの連携事業です。



淡海の川づくりフォーラムは、滋賀県流域治水条例第 34 条に基づく県民相互の連携の支援事業です。



2. 大会プログラム

時間	内 容
9:10 9:30	○受付 ○選考委員・事務局ミーティング（進め方、選考方法等） 場所：会議室2
9:30 9:50	○開会、ガイダンス 【大会議室】 大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。
9:50 10:50	○全体発表 【大会議室】 全体会場で活動を発表します。（発表時間各3分）
10:50 11:50	○テーブル選考 【A 大会議室】 【B 会議室1】 【C 会議室3・4】 1) 3つのテーブルに分かれます。 2) 発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。（選考数：テーブルごとに2団体） 3) ここで推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。
11:50 12:10	○テーブル選考結果発表 【大会議室】 大会議室で各テーブルから推薦された団体（計6団体）を発表します。
12:10 13:00	お昼休憩  ※危機管理センターの会議室内では飲食できません。お弁当持参の方は、エントランスロビーか、ご案内する昼食場所（北新館3階多目的室1～3）で昼食を摂ってください。
13:00 13:30	○復活選考 【会議室3・4】 1) 時間内で自由に選考員に活動内容をアピールしてください。 2) 復活選考から全体討論に進むのは3団体です。 ○ポスターセッション 参加者全員で、応援したい！活動に、応援メッセージカードを贈ります。
13:30 16:15	○全体討論 【大会議室】 1) 2分間で活動内容を発表、5分間の質疑 2) 選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
16:15 16:30	○各賞の発表・表彰式 【大会議室】 1) 「グランプリ」・「準グランプリ」の表彰 2) 「山紫水明賞」、「マザーレイクフォーラム賞」の表彰 3) 「応援の花咲いた賞」の表彰

3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について

(1) 「公開選考会」の意味

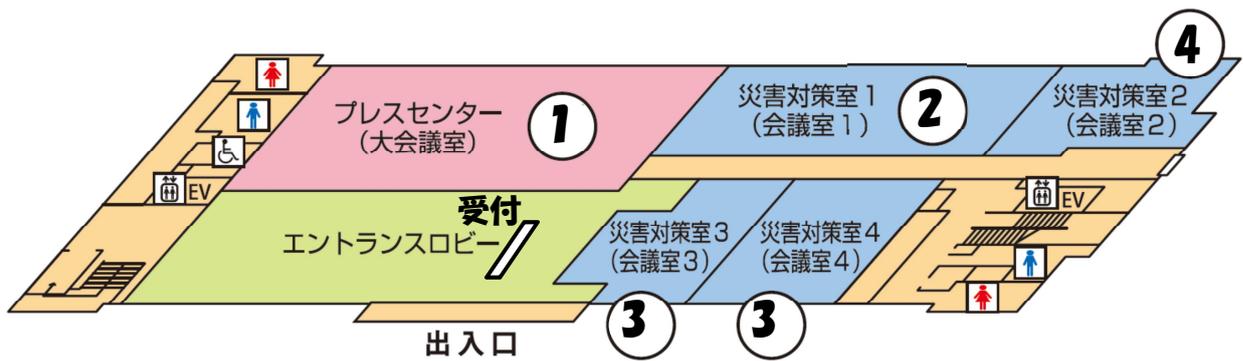
- 淡海の川づくりフォーラムは、公開選考会という仕組みを使って、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について考えることが目的です・・・受賞団体の選考は、手段であって目的ではありません。
- お互いの発表を聞き、選考員や参加の皆さんそれぞれの視点を通して、活動の「よいとこさがし」をしてください。
- 15 ページから、今回参加の皆さまの活動概要を掲載しています。ページの下側に、「よいとこ探しキーワード メモ」の欄を設けています。ぜひ、「よいとこキーワード」をメモして、議論に参加してください。
- 質疑応答や討論時間を使って行われる「よいとこさがし」は、“川や水辺と私たちのいい関係”について考えを深める時間です。

(2) 公開選考会の進め方について

- 選考会は、全体発表→テーブル選考→復活選考→全体選考(公開討論会)→表彰の順番で進めていきます。
- 全体発表は、参加団体が一堂に会して、日ごろの取り組みを発表します。全体発表は1団体3分とし、質疑は行いません。
- テーブル選考は3テーブル、1テーブル5または6団体に分かれ、全体発表で語りきれなかった部分の説明や質疑を通じて、それぞれの活動について理解を深めます。発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。(選考数：テーブルごとに2団体)

テーブル	テーブル選考会場
テーブルA	大会議室 次頁図①
テーブルB	会議室1 次頁図②
テーブルC	会議室3・4 次頁図③

- テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。復活選考では、選考員が大会議室に掲示された各団体のパネルを見て回りますので、時間内で自由に選考員に活動内容をアピールしてください。復活選考から全体討論に進むのは3団体です。
- 全体選考に進んだ団体は、再度、大会議室で発表をしていただきます。2分間で活動内容を発表した後、5分間の質疑の時間を設けます。
- 選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
- 選考員は、自らも発表者から情報を得たり、学んだりする姿勢を持ちながら参加者と一緒に“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちのいい関係”とは何かを探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、創造的に深めていくことを心がけてください。



(3) 選考基準

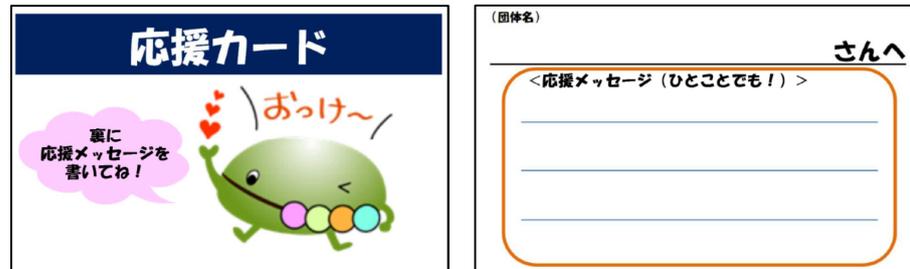
- 伝統的な文化と新しい文化が出会い融合する湖国滋賀にふさわしい“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちとのいい関係”を探ります。
- 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
- 公開選考会は、以下の4つのポイントにおいて総合評価します。

- 1) 発想・着眼評価：“川や水辺と私たちのいい関係”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
 例えば…
 - ・この発想はなかった！
 - ・やれるところからやりはじめているのが、イイね！ など
- 2) 関わり評価：地域住民と水辺との豊かで良好な関わり合いについての評価
 例えば…
 - ・水辺が地域を元気にするね！
 - ・継続は力だ！ など
- 3) プロセス評価：市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
 例えば…
 - ・え、そんな人たちも参加しているんだ！
 - ・その連携は面白い！ など
- 4) 計画・技術評価：“川や水辺と私たちの共生”のために工夫された計画手法や採用技術についての評価
 例えば…
 - ・そんなことが出来るんだ！
 - ・すこしの工夫でずいぶん違うね～！ など



(4) ポスターセッション

- 復活選考とあわせて「ポスターセッション」を行います。
- 参加者全員に「応援メッセージカード」を2枚ずつお配りします。
- 大会議室に掲示された各団体のパネルを見て、応援したい！と思われた活動に、「応援メッセージカード」を贈りましょう！
- 「応援メッセージカード」には一言でもメッセージを書いてください。団体の活動の励みになります！



(5) 表彰

【グランプリ・準グランプリ】

- 上記の選考基準により、審査する時点の流域・地域の情勢も踏まえ、“水辺と私たちの共生”、“水辺と私たちのいい関係”のモデルとなる活動を選考します。
- 上記の選考基準により、仲間たちに希望を与える活動を選考します。

【山紫水明賞（河港・砂防協会賞）】

- 上記の選考基準とは別の視点から、今後の淡海のいい川づくり・いい湖づくりの(事業)推進に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【マザーレイクフォーラム賞】

- 上記の選考基準とは別の視点から、マザーレイク 21 計画の目標達成に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【応援の花咲いた賞】

- 上記選考基準とは別に、ポスターセッションで会場からの応援メッセージが一番多かった団体を表彰します。
- 全ての参加団体が受賞の候補となります。
- 他の賞と重複して受賞する可能性もあります。

4. 参加団体一覧・テーブル

●全体発表はA-1から順番に行います。

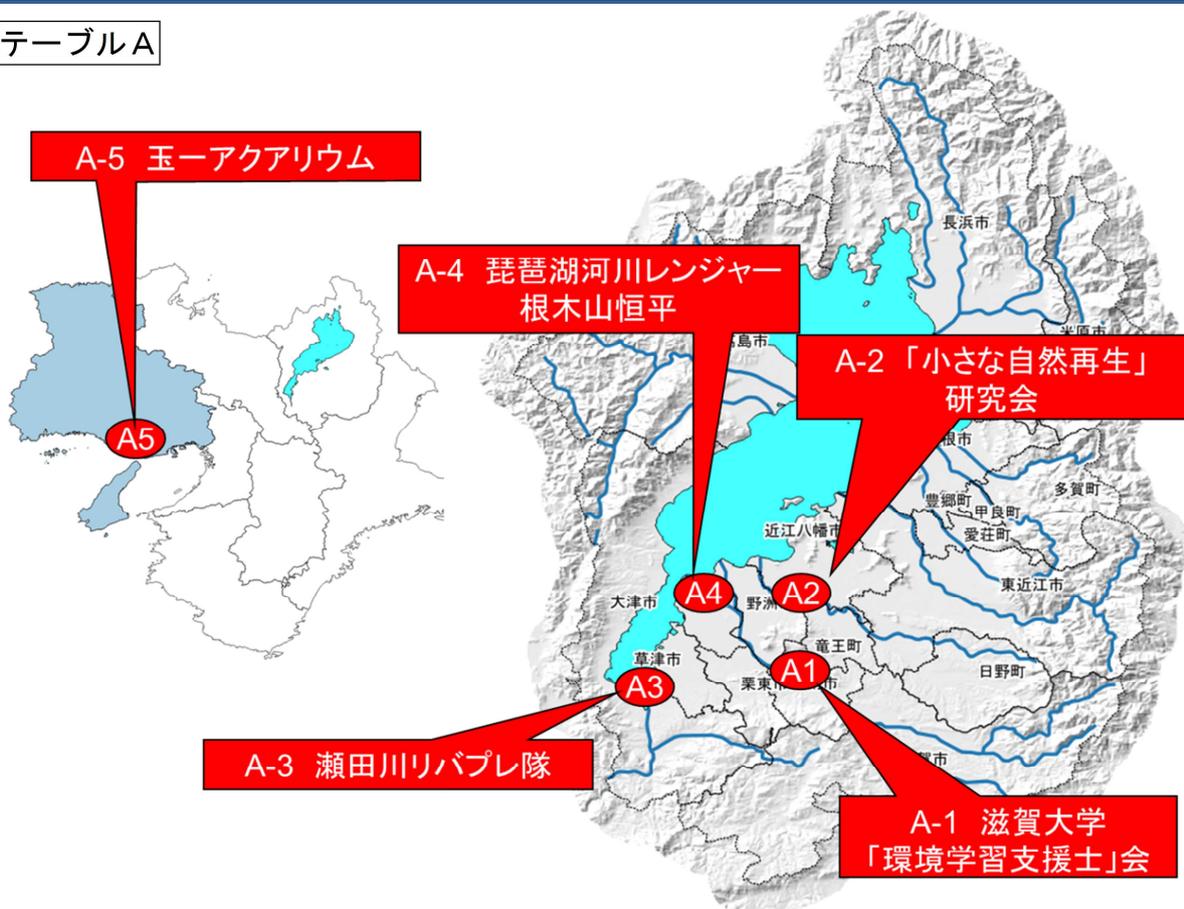
テーブル	グループ名	湖沼・河川・活動地域等	活動内容
テーブルA	A-1 滋賀大学「環境学習支援士」会	雨丸川～細川～金勝川～ 新草津川～琵琶湖等 (栗東市御園町)	親子の体験講座「身近な川の自然探検」
	A-2 「小さな自然再生」研究会	全国の河川・水辺	P16 参照
	A-3 NPO 法人瀬田川リバプレ隊	琵琶湖、瀬田川 (大津市)	琵琶湖岸・瀬田川環境美化活動 清掃等
	A-4 琵琶湖河川レンジャー 根木山恒平	野洲川（下流部） (守山市中洲学区付近)	河川で活動する住民活動のオーガナイズング（草の根自治）との行政の協働
	A-5 玉ーアクアリウム	明石川 (神戸市西区玉津町)	明石川の生物多様性保全活動
テーブルB	B-1 TANAKAMI こども環境クラブ	天神川、大戸川 (大津市)	水質調査と生き物調査
	B-2 立命館守山中学校・高等学校 Sci-Tech 部	野洲川 (野洲市吉川町)	5月から11月まで毎月、樹皮を剥いたヤナギの生育状況の観察実験を行った。
	B-3 NPO 法人国際ボランティア学生協会	琵琶湖、瀬田川 (大津市)	侵略的外来水生生物オオバナミズキンバイの除去活動
	B-4 治水利水から学ぶ・楽しむ実行委員会	琵琶湖・野洲川 を中心 (大津市)	河川及び環境、地域を知る・楽しむ学習ツール作成や、体験プログラムの企画・実施
	B-5 中ノ井川にホタルを	中ノ井川 (栗東市縹)	川辺の親水環境と憩いの場づくりと、ホタルの生育環境づくり

C-1	近江八幡市立馬淵小学校 4年生	白鳥川・日野川 (近江八幡市)	小学校4年生 総合的な学習の時間
C-2	滋賀県立守山高等学校 (SGH 課題研究チーム)	吉川川 (守山市勝部)	生態保全 (ホタル再生プロジェクト)
C-3	大川活用プロジェクト 支援団体 haconiwa	大川 (守山市今浜町)	大川を里川として復興する取り組み
C-4	淡海を守る釣り人の会	琵琶湖、瀬田川 (大津市)	水辺の清掃活動および環境学習を通じて地域とつながり、マナーを守って安全に水辺を楽しむための情報や琵琶湖の現状について発信する
C-5	地球研・栄養循環プロジェクト, 小佐治環境保全部会	佐治川 (甲賀市甲賀町)	研究者との協働による水田生態系の再生活動

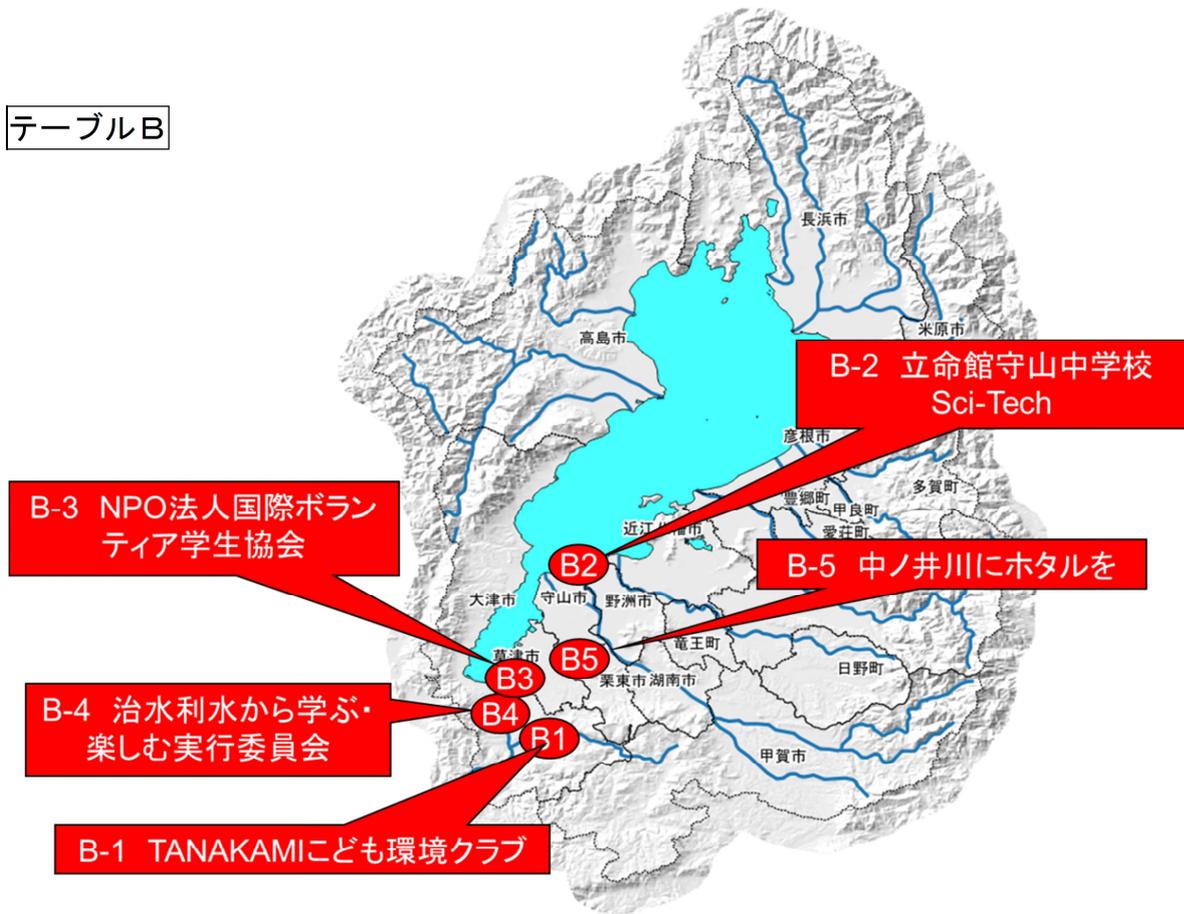
計 15 団体

5. テーブル別各団体活動位置図

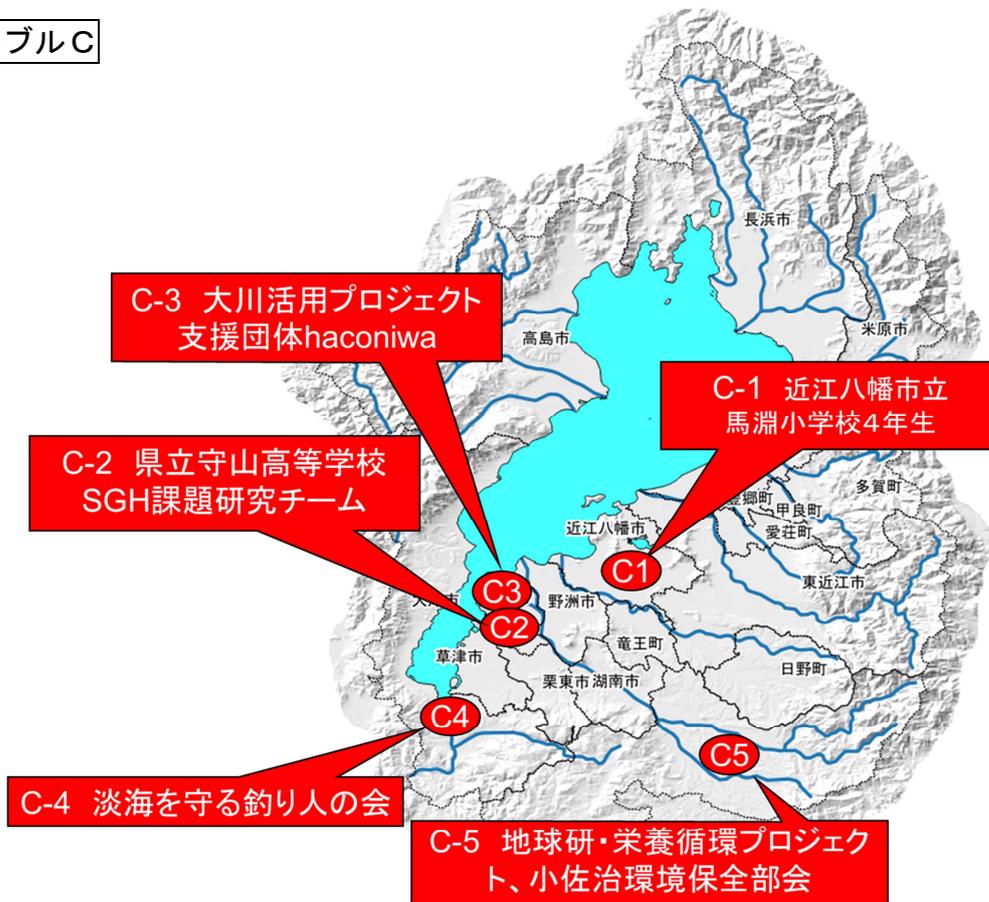
テーブルA



テーブルB



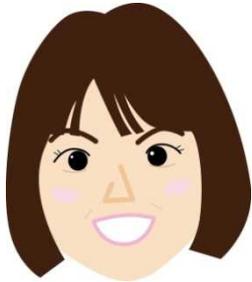
テーブルC



6. テーブル選考 選考員プロフィール

テーブルA

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)

正阿彌 崇子 (しょうあみ たかこ) / NPO 法人とよなか ESD ネットワーク 理事

兵庫県在住。環境学習やESD(持続可能な開発のための教育)といった、多様な人たちがみんなで成長できる場を作るため、近畿や海外などで活動している。2012年度に、琵琶湖博物館環境学習センターで勤務し、滋賀だい好き人間。現在の環境や社会の有りに危機感を抱きながら、日々、たくさんの人と共に仕事や活動に邁進している。



安部 尚子 (あべ たかこ) / TANAKAMI こども環境クラブ

名古屋の都心部で生まれ育ちながら自然を求めて山で動物観察を学生時代は行っていた。滋賀に住むようになり水環境(川、びわ湖)での生き物観察を子どもたちと行うようになった。大津市こども環境探偵団などでサポーターとしてかかわりながら、TANAKAMI こども環境クラブ(前身、西方寺ふくじゅ土曜学校)を立ち上げ、子どもによる子どものための環境学習を考案しながら日々活動している。



藤田 知丈 (ふじた ともたけ) / 暮らシフト研究所 (MLF)

島根県八雲村、ホタルやカワセミが飛び交う意宇川沿い(中海の源流域)の家で川ガキ・山ガキとして育つ。大学時代にびわ湖と出会い、そのまま滋賀に定住。建設コンサル、指定管理、NPO等の仕事を経て独立し、姉川源流の古民家に移住して「暮らシフト研究所」を設立。得意分野は情報デザイン、地域プロデュース、映像製作など。

マザーレイクフォーラム運営委員、東草野まちづくり懇話会事務局、NPO法人碧いびわ湖理事ほか。



前川 勝人 (まえばがわ まさと) / 水辺に学ぶネットワーク

河川行政を支援することを生業とし、色んな人達と繋がりながら川づくりの活動をしています。

SUPに乗って水面をぼおーっと見ながら過ごすこと、子ども達と一緒に川遊びをすることが大好きです。

どうぞ、よろしくお願ひします。

テーブルB

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)

中野 隆弘 (なかの たかひろ) / びわ湖エコアイデア倶楽部 (MLF)

滋賀県大津市生まれ。小さな頃から川や山に行くのが大好きでボーイスカウトで今も活動する。2008年に勤務先有志が立ち上げた市民団体“びわ湖エコアイデア倶楽部”に、こどもエコクラブのサポーターとして参加、翌年から事務局兼サポーターとして体験活動の企画・運営や地域の子どもたちとワークショップのファシリテーターにも挑戦。自然体験を通して出会う、子どもたちの“つぶやき”に学ばせてもらっています。



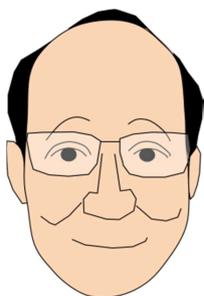
近藤 美麻 (こんどう みお) / 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所

愛知県名古屋市生まれ。小さな頃から生物好きで、次第に生物と生物がすむ環境、人との関わりに興味を持つようになり、大学では水田地帯の生物(とくに淡水二枚貝)を対象に研究を行い、農業との共存について考えていました。現在は大阪府立 生物多様性センターに勤務し、府内の水辺にすむ生物たちの調査研究や、生物多様性の普及啓発、環境教育を担当しています。水辺やそこにすむ生物たちの魅力を、一人でも多くの人に伝えていきたいです。



豊田 知八 (とよた ともや) / 保津川遊船企業組合 代表理事

昭和41年 京都市生まれ。保津川遊船企業組合 代表理事、NPO法人プロジェクト保津川 副代表、京都大学東南アジア研究所・連携研究員。
保津川の漂着ごみの現状を憂い、船士たちで自主的な回収活動を開始した。その後、NPO法人プロジェクト保津川を設立し、地域市民の皆様や企業団体、行政間のネットワーク化により保津川的环境保全と文化価値向上を目指し活動中。



橋本 聡 (はしもと さとし) / 土木交通部砂防課課長

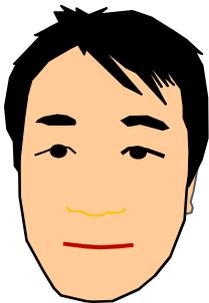
滋賀県甲賀市生まれ大津市在住。土木技術職として滋賀県に入庁して三十数年、そのうち大半を河川行政に携わり、もっぱら河川の人。昨年は、流域政策局に在職していましたが、今年度から砂防課へ配置替えとなりました。現在、河港・砂防協会の事務局を努めています。
近年の異常気象に伴う災害の多発に憂いつつ人の命を救うことの難しさを痛感しております。

テーブルC

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)



金尾 滋史 (かなお しげふみ) / 琵琶湖博物館 学芸員

1980年広島県生まれ。当時学長をしていた日高敏隆先生と琵琶湖の魚に憧れ、滋賀県立大学へ入学。その後同大学院、多賀町立博物館学芸員を経て現職。専門は淡水魚の保全生態学。

学生時代から地域の川づくり、河川・田んぼでの環境教育にいろいろと参画してきた。現在は、地域の子どもたちに囲まれながら、「学」と「芸」を両立させるカリスマ学芸員を目指して日々修行中。

石山 基 (いしやま もと) / 大津土木事務所 河川砂防課長

滋賀県大津市生まれ、琵琶湖岸の風景を見て育つ。

滋賀県に入庁後、河川法改正の頃より河川に関わる職場に多く在籍。数度の「川づくり会議」の事務局運営にも携わりながら、住民との「合意形成」の現場を経験する。時期を同じくして始まった、「いい川・いい川づくりワークショップ」や「淡海の川づくりフォーラム」にも参加、以来そのフォーマットをこよなく愛している。

青田 朋恵 (あおた ともえ) / 農政課世界農業遺産推進係 参事

仕事では、「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業」の推進のため、「世界農業遺産」認定に向け、取組を進めているところです。

特に、オフでも「魚のゆりかご水田」などに関わり、生物多様性と農山漁村地域の活性化について、考え行動しているところです。そのために、自分自身に何が出来るのか、自分の無力さを痛感しつつも、日々悪戦苦闘しています！

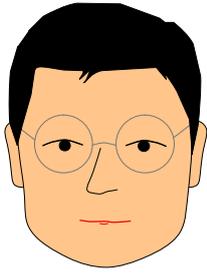
プライベートでは、滋賀の郷土料理や湖魚料理、とりわけフナズシを愛し、常に鼻をきかせて、いい匂いのする方向へ本能的に猪突猛進しています

辻博子 (つじ ひろこ) / (一社) 滋賀グリーン購入ネットワーク (滋賀 GPN) 事務局長 (MLF)

新潟県生まれ。滋賀 GPN の活動を通して、環境に配慮した消費行動『グリーン購入』を事業者や市民に広げています。グリーン購入には「環境に配慮した商品・サービスを買う」だけでなく「環境保全に熱心な事業者から買う」という意味もあるので、そうした熱心な事業者さんの活動を応援し、滋賀県産の環境配慮商品の市場を拡大するにはどうすれば良いか、日々考えています。

また、東日本大震災被災地との絆づくりの「近江ひまわりプロジェクト」や「地域エネルギー研究会」としても活動しています。

7. 全体討論 選考員



福廣 勝介（ふくひろ しょうすけ）／NPO法人 近畿水の塾 理事長

UR 都市機構、および関連社で、団地の屋外環境の計画設計、管理担当を四十数年。他団体、住民さんとの協働仕事、イベント多数。標榜してきたのは「地域の緑に就職する」。一方、川好き。傷められている川を憂い、川の住民活動に参加。現在、NPO法人「近畿水の塾」代表理事、「川の会・名張」代表、NPO法人「全国水環境交流会」理事。昭和24年、三重県伊賀（名張市）に生まれ、爾来、大部分、名張住まい。関心事は、林学。山・川・人との付き合い。自然復元。団地故郷作り。脱近代。



佐々木 和之（ささき かずゆき）／水色舎（MLF）

小二の時に東京世田谷のコンクリート三面張りの川で遊んだことが川での原体験。小五から日本野鳥の会の会員になり、川や公園で野鳥観察するようになる。

中高時代は野鳥の生息環境が失われる開発もあり、開発する／しないの二択だけではなく、どのように調整したら少しでも生息環境が残こせるのかを考えるようになった。

滋賀県立大時代から、市民の想いを反映した川づくりに向けた、住民と行政との連繫手法がテーマ。川の風景づくりを目指して洗堰レトロカフェ開催中。

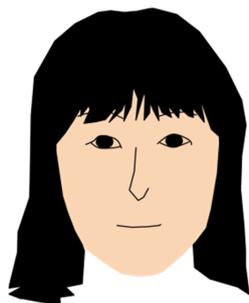


小丸 和恵（こまる かずえ）／NPO 法人子どもと川とまちのフォーラム 理事

大阪府生まれ、愛媛県と京都府育ち。びわ湖に呼び寄せられて滋賀へ。比良山を背景にびわ湖をのぞむ湖西で暮らしはじめて3年目。

世代や立場を越えた仲間、川や湖、里山など自然に親しむ場を提供する「子どもと川とまちのフォーラム」の活動を続けて、約20年。長年のフィールド京都と滋賀をつなぐ役割を担えればと願っている。

3・11後の暮らし方を提案する「あるもん（自然素材・リサイクル・地産地消・自然治癒力）」を大切に暮らす「arumonde 暮らしを楽しむ会」も主宰し、暮らしを楽しむ集いの企画や被災地からの避難ママたちの活動のサポート等も行っている。

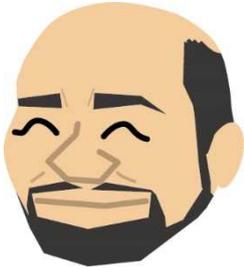


手塚 恵子（てづか けいこ）／京都学園大学 人文学部 教授

壕川（京都市伏見区）の畔で、琵琶湖疎水の流れを眺めて育つ。大学では地域文化を民俗学・文化人類学の手法で研究。保津川（大堰川・桂川）で、半世紀前に途絶えた筏流しの復活プロジェクトを地元の皆さんとともに担い、保津川的环境や歴史・文化を守り、受けつぐ取り組みをすすめている。京都府内水面漁場管理委員会委員（水文化担当！）カヌーで水辺を散策するのが好き。

8. 総合コーディネーター・コメンテーター&実行委員会

(総合コーディネーター)

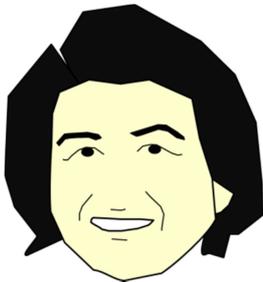


新川 達郎 (にいかわ たつろう) /

同志社大学大学院 総合政策科学研究科教授・政策学部教授

水・環境ネット東北、カップ研究会、近畿水の塾、全国水環境交流会を始めたくさんの方に遊んでもらっています。主に20世紀は東北、21世紀は関西の水辺で暮らしてきました。今は京都の鴨川が身近です。川と水の縁は、一見流れてしまうようですが、実はどこでもつながってしまっていて、改めて奥深いものだと感じています。同志社大学で教育研究にあたっていますが、滋賀県の実験や琵琶湖レジャー利用の審議会にも関わってきました。

(コメンテーター)



**朴 恵淑 (ぱく けいしゅく) / 三重大学人文学部・地域イノベーション学
研究科教授、三重大学地域ECOシステム研究センター長**

1954年韓国ソウル生まれ。日韓の架け橋として、大気汚染や地球温暖化、水環境保全、環境教育に関わっています。3・11の東日本大震災により、環境の大切さに気づき、絆の素晴らしさに気づき、未来に希望をつなぐことに皆、必死で取り組んでいます。

「淡海の川づくりフォーラム」が、青いゴールドと呼ばれる水資源や水環境の大切さに気づき、日本を動かす大きなムーブメントとなれるよう、頑張ります。

(グラフィックファシリテーター)



あるがゆう

京都女子大学家政学部生活造形学科意匠専攻卒業。

グラフィックレコーディングを研究。半年で100以上の現場でペンを持ち、卒業論文にまとめる。役所、内閣官房主催の対話の場や、中小企業や大手飲料メーカーの研修などで経験を積む。

現在は東京の情報コミュニケーション支援企業にて働きながら、グラフィックファシリテーターとして活動中

(実行委員会)

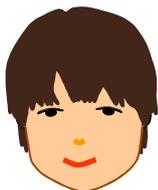
委員長



北井 香(きたい かおり) / NPO 法人木野環境 理事

県内の農山村を中心にいくつかの活動にスタッフなどの立場で関わっています。地域の良さを前向きに活かして、活動・発信・取組みを応援したい。現職は滋賀県立大学 特定プロジェクト研究員。2009年に流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

委員長代理



瀧 健太郎(たき けんたろう) / 滋賀県立大学 准教授

川の日(7月7日)生まれ。大学院修了後、民間企業を経て滋賀県庁勤務(18年間)ののち現職。河川・流域政策の実務を長年にわたって担当した(淡海の川づくりフォーラム第1回~第6回まで事務局)。数多くの川や人との様々な出会いを通じ、川の魅力に取りつかれている。また、どんな川であっても、地域に愛される川こそが“いい川”だと信じている。

実行委員会(流域治水検討委員会(住民会議))

滋賀県の流域治水基本方針の策定に向けた「水害から命を守る地域づくり県民宣言」を提言した、流域治水検討委員会(住民会議)の中から、「住民が次の年も活動するのに元気が出るような場をつくろう」との議論があり2009年に発足。

大橋さん 杉本さん 松尾さん 中井さん 柴田さん 石津さん 齒黒さん 成宮さん 中村さん 多々納さん



9. 参加団体活動概要

A-1 滋賀大学「環境学習支援士」会

活動のキーワード

- ①水質・生物調査 ②グループ発表 ③親子で体験

発表内容

県内の小学校5年生は全員が学習船（うみのこ）での乗船宿泊体験をしているが、この体験前後に行われる事前・事後の学習は各小学校の自主計画によって実施されている。各小学校では乗船前後の学習に毎年工夫をして実施しているが、担当の教師は通常の学習や生徒指導だけで時間的な余裕がなく困っているのが実情である。

2018年度から、小学4年生（やまのこ）体験学習の事前・事後の学習を開始したが、（うみのこ）同様な状況で、うみのこ、やまのこの事前・事後の出前講座の大切さを実感している。私たちは、森林と琵琶湖をつなぐ、親子体験講座「身近な川の自然体験」を通して森林と琵琶湖つなぐ川は、①生物の命の回廊である。②3つの体験学習を通して自分で考えて行動する未来のびわ湖人育成を目指す。③親子で体験し、地域の身近な川への関心を高めて川をきれいにする活動へ発展する。

活動中の川や水辺の名称

雨丸川～細川～金勝川～新草津川～琵琶湖

活動内容

親子の体験講座「身近な川の自然探検」

よいところ探しキーワード メモ！



A-2 「小さな自然再生」研究会

活動のキーワード

- ①できることからはじめよう
- ②水辺の小さな自然再生
- ③Collaborative Nature Restoration

発表内容

地域ワクワク川づくりをサポートする、腕利きチーム
「小さな自然再生」研究会の活動を紹介します。

活動中の川や水辺の名称

全国の河川・水辺

活動内容

小さな自然再生は、文字通り小規模な自然再生ですが、その条件について「小さな自然再生」研究会（専門家・行政担当者・若手技術者の有志で構成、2014 発足）では、以下のように定めています。

- （条件1）自己調達できる資金規模であること
- （条件2）多様な主体による参画と協働が可能であること
- （条件3）修復と撤去が容易であること

自己資金で行うので市民主体の取り組みは小規模になりますが、一方で、真剣に川と向き合い取り組むことができます。また、小規模ゆえに失敗しても川にもダメージは少なく済みます。修復と撤去が容易なので、試行錯誤が可能です。確実に成功に近づいていけます。試行錯誤は学びそのものであり、そしてわくわくの源です。すぐれた環境学習の機会をみなさんに提供します。

そして「小さな自然再生」研究会では、「小さな自然再生」の英語訳を「Collaborative Nature Restoration」としました。“Collaborative”とした理由は次のようなものです。小さな自然再生は、公共事業とは違い、誰にでも発案できるチャンスがあり、誰もが関わることができ、ちょっとだけ手伝うひと、がっちりやるひとなど多様な関わり方が許されます。学生時代の友だちと、意気投合したり、漁業者が川の惨状を見かねて、大学の研究者や地元小中学校・高校、市役所の知り合いに呼び掛けたり、ひとりでコツコツ20年など、多様な人たちの関わりが許されます。

また、「サイエンス」「子どもたち」「小さな成功」の3拍子がそろって自然再生はうまくいきます。河川工学や生態学などの科学的な知見は、“川の気持ち”の理解を助けてくれます。子どもたちの関わりは地域の大人を繋げてくれます。やったことの効果が見えると次々とやりたいことが増えいきます。活動は楽しく長く続きます。

とにかく楽しい「小さな自然再生」
ここでもやってみませんか？

（引用文献）

できることからはじめよう ―
水辺の小さな自然再生事例集」, 「小さな自然再生」事例集編集委員会（現「小さな自然再生」研究会）編著,
日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）, 2015
<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/567.html>

よいとこ探しキーワード メモ！



A-3 NPO法人瀬田川リバプレ隊

活動のキーワード

- ①河川・湖岸の環境美化 ②天ヶ瀬ダムへのゴミ漂着 ③ゴミ問題

発表内容

過去10年間は河川清掃について発表しましたが、去年は天ヶ瀬ダムへのゴミ漂着を取り上げ発表しました。今回は、瀬田川リバプレ隊主催の河川を愛する市民会議及び現地見学会の報告。瀬田川・琵琶湖岸への心ない人達のペットボトル、レジ袋等のプラ製品、空き缶等ゴミ捨て防止対策の活動報告

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖、瀬田川

活動内容

琵琶湖岸・瀬田川環境美化活動清掃等

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①野洲川放水路 40 周年 ②河川での住民活動 ③コミュニティ・オーガナイズ

発表内容

私は、国交省の制度である「川と人、人と人をつなぐ／住民と河川行政をつなぐ住民コーディネーター＝琵琶湖河川レンジャー」として、2013 年度より、野洲川下流部（守山市中洲学区）にて活動を行ってきました。

当地では、長年の地域住民の要望にもとづき、近年、守山市と国交省により「かわまちづくり」として水辺（野洲川中洲親水公園あめんぼう）の整備が行われました。そこで私は、当地をフィールドに体験学習を行う住民グループ「なかす野洲川たんけん隊」の組織化支援を行ってきました（2015～）。他方、守山市中洲学区にある 5 つの地域（自治会）を対象に、住民の意見聴取や住民との関係構築を進めています。

2019 年は、野洲川放水路の暫定通水から 40 周年にあたることから、守山市や国交省で記念行事が計画されています。野洲川の洪水や、その後の放水路の整備によって、おおきな影響を受けてきた当地の住民と、野洲川との良好な関係を取り戻すために、なにができるでしょうか？

なお、住民と行政をつなぐコーディネイトの実践において、私は「コミュニティ・オーガナイズ」というアメリカで発達した住民組織化の理論を学びながら試行錯誤しています。

活動中の川や水辺の名称

野洲川（下流部）

活動内容

河川で活動する住民活動のオーガナイズ（草の根自治）と行政との協働

よいとこ探しキーワード メモ！



A-5 玉ーアクアリウム

活動のキーワード

- ①外来種の駆除 ②在来種の保護 ③環境保全

発表内容

活動を10年以上続けてきた結果、外来種が減り、在来種が増えてきました。そこで私たちは明石川にいなくなったアユを復活させたいと思いました。明石川は住宅地や田畑を流れているので、水は一見透明できれいに見えますが、下水や肥料など私たち人間が出す汚れが混ざっていて、川底にはそれを養分にして藻類が生長しています。もしアユの復活が成功すれば、その藻類をアユが食べ、更にそのアユを人間が捕って食べれば、人間が汚したものを人間が食べて回収する事になり、明石川の生態系を使ったりサイクルが完成します。専門家の助言や漁協の協力をいただき、魚道の整備やアユの仔魚や幼魚の放流により、まだまだ数は少ないですが増えつつあります。

活動中の川や水辺の名称

二級河川明石川

活動内容

明石川の生物多様性保全活動

よいところ探しキーワード メモ！



B-1 TANAKAMI こども環境クラブ

活動のキーワード

- ①生き物 ②外来生物 ③貧栄養地帯

発表内容

田上山（笹間が岳）ため池丸ごと調査 滋賀県大津市南部の笹間が岳頂上周辺は、花崗岩の山で自然発生したため池が多くみられる。一つ一つの池には、異なった生き物が生息して、違った様子を見せている。2008年ころより1年に1回山に登って水の様子や生き物を調べてきた。今年は、池に生息する生き物を様々な角度から調べてみよう、秋のころから3回集中的に観察調査を行った。しかし毎年 春から夏にかけて行う観察とは、季節も違うためか多くの違いを見つけた。この違いの検証を行った。また夏に行った琵琶湖の調査船コスモと大阪湾での海上での観察を踏まえて水辺についての感想や世界湖沼会議で考えた水辺について発表する。

活動中の川や水辺の名称

天神川、大戸川

活動内容

水質調査と生き物調査

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①野洲川河口 ②ヨシ帯の分布域拡大 ③ヤナギの駆除方法の確立

発表内容

私たちは数年間に渡り琵琶湖に流入する最大の河川である野洲川河口域において生態モニタリング調査を実施してきている。その結果、ヨシ帯の拡大が観察される一方でヤナギが入り込むことによって陸地化が促進し、ヨシ帯の分布域拡大を抑制していると考察した。そこでヤナギの樹木をより簡易的に駆除する方法を確立することを目標に実験と経過観察を行ってきた。ヤナギの樹皮の剥き方や、さらに剥いた部分にしょう油やわさび、重曹などを塗布することでより早く枯れさせる方法を模索した。

活動中の川や水辺の名称

野洲川

活動内容

5月から11月まで毎月、樹皮を剥いたヤナギの生育状況の観察実験を行った。

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①大学生 ②協働 ③オオバナミズキンバイ

発表内容

2009年に外来水草オオバナミズキンバイが琵琶湖で発見されました。約7年間で30万平方メートルまで増殖する強い繁殖力により、2014年に特定外来生物に指定されました。現在では、琵琶湖だけでなく鴨川、淀川、関東の霞ヶ浦や手賀沼まで広がっており日本全国の問題へとおりつつあります。

今年度、本協会では子どもたちを対象にした学習会の開催や世界湖沼会議での発表を通しての啓発活動、一般参加を含む約500名での大規模除去活動や人の手でしか除去のできないヨシ群落での除去活動を実施し、オオバナミズキンバイの啓発及び除去に取り組んできました。今後も、水辺と人の共生を目指して、琵琶湖での教訓を全国に伝え、環境保全に努めていきます。

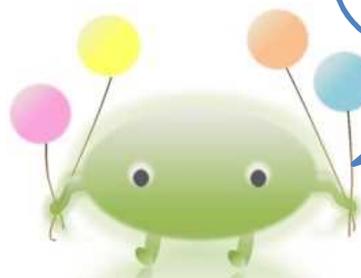
活動中の川や水辺の名称

琵琶湖、瀬田川

活動内容

侵略的外来水生生物オオバナミズキンバイの除去活動

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①川の事を知る ②学ぶ ③楽しむ

発表内容

私たちは、子どもたちをはじめ多くの方と一緒に、川を楽しみ、川から学ぶことをねらいに活動を始めました。それぞれがこれまでに活動してきた経験や知識を活かし、人と川とのより良い関係づくりを目指しています。

今回は、「川のことを知る、学ぶ」をテーマに、治水利水について楽しく学べるツールの開発をおこないました。琵琶湖淀川流域はとても広く、学ぶべきことが大変多いですが、まずは治水利水について、少しでも興味を持ってもらえるきっかけづくりとして、天ヶ瀬ダム再開発を学ぶ【ダムすごろく】。瀬田川の砂防事業を学ぶ【砂防たんぼう冊子】の2種を、河川管理者、地域の皆様、研究者のご協力を得ながら作成しました。

本フォーラムが初めての紹介の場になります！ぜひ手に取ってみてくださいね。

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖、瀬田川を中心に

活動内容

河川及び環境、地域を知る・楽しむ学習ツール作成や、体験プログラムの企画・実施

よいところ探しキーワード メモ！



B-5 中ノ井川にホタルを

活動のキーワード

- ①川辺の親水環境と憩いの場づくり ②ホタルの生育環境づくり ③ビオトープによる自然観察

発表内容

1年目の活動成果

- ・大宝小学校より下流にホタルの生息が確認出来ました
- ・大宝小学校「中ノ井川クラブ」と中ノ井川の生きもの調べが出来ました
- ・蛇が池への水路がセメントで遮蔽していました。

2年目の目標

- ・大宝小学校「中ノ井クラブ」と協働でホタルが生息出来る環境を広げます
- ・蛇が池に中ノ井川の水を引き込み、きれいな池で市民の憩いの場になるように、行政機関と交渉します。
- ・蛇が池をビオトープとして活用することを、関係団体と協議します。

活動中の川や水辺の名称

中ノ井川

活動内容

川辺の親水環境と憩いの場づくりと、ホタルの生育環境づくり

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①白鳥川の自然にふれる
- ②馬淵学区の過去の水害の学習と水害時の避難
- ③通学路の危険か所調べ

発表内容

近江八幡市立馬淵小学校は、近江八幡市の南にあり、小学校の横には滋賀県が管理する一級河川「白鳥川」が、南側1kmには「日野川」が流れている。馬淵学区は昔から白鳥川や日野川の水害に悩まされてきた地域である。4年生の社会科で水害の学習は、ずっと以前からされてきたが、10年前より、たくさんのご支援を受けて上記の学習をしてきた。5つの段階に分けて、学習したことを、本校の「馬っこ学習」（総合的な学習の時間）の発表の場である「馬っこフェスティバル」で発表した。4年生の児童が学習してきた内容をお伝えする。

活動中の川や水辺の名称

白鳥川、日野川

活動内容

小学校 4年生 総合的な学習の時間

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①生態 ②環境 ③地域

発表内容

古くから守山はゲンジボタルの群生地として有名でしたが、水質悪化などの環境変化により飛翔数が激減しました。現在では幼虫の放流など、ホタルの住むまちづくりに向けた取り組みが進められています。私たち、県立守山高校スーパーグローバルハイスクール課題研究チームは、ホタル再生に向けたプロジェクトの一環として、市街地におけるホタルの自生を目的に活動しています。ホタルに適した河川環境整備を行った上で、幼虫を放流し、上陸観察や飛翔観察を行うことで、環境整備の有効性を検討しました。

活動中の川や水辺の名称

吉川川

活動内容

生態保全（ホタル再生プロジェクト）

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①里川 ②地域 ③次世代

発表内容

私達は「大川活用プロジェクト」に参加しています。「大川活用プロジェクト」は水環境が悪化した滋賀県守山市の大川を里川として復興させる目的で結成されました。官民学が提携して大川を軸とした活動を行っています。地域の年長者の方々には次世代を担う子ども達に、大川に由来する地域の特色や文化、歴史などを伝え、地域に愛着と誇りを持ってもらいたいと思っています。私達はその思いを受け取り、子ども達に伝えるために、一年を通して様々な企画・プログラムを提供・実施しています。私達は橋渡しの役割です。現代では廃れてしまった「青年団」のような存在が、地域コミュニティには不可欠であると実感しながら活動をしています。

活動中の川や水辺の名称

大川

活動内容

大川を里川として復興する取り組み

よいところ探しキーワード メモ！



C-4 淡海を守る釣り人の会

活動のキーワード

- ①水辺の活動が広がる ②理解が深まる ③力が、絆が強くなる

発表内容

釣り人から琵琶湖・瀬田川への恩返し、として始めた釣り人による清掃活動は、地域や行政の方から多大なご支援を得て、更に大きな飛躍を遂げました。地元のボランティア団体・自治体・漁協の皆様と連携した清掃活動や瀬田川のヨシ刈りをはじめ、近畿水の塾様が主催する河川塾とリバプレ隊様が主催する河川を愛する市民会議では清掃活動について講演、子供達に釣りの楽しさとライフジャケット着用の大切さを伝え、マザーレイクフォーラムでは釣り人から見た琵琶湖の変化を発表、琵琶湖博物館では親水活動における安全啓発と推進のワークショップを開催しました。皆様に支えられていることに感謝し、これからの釣り人の役割をお伝えします。

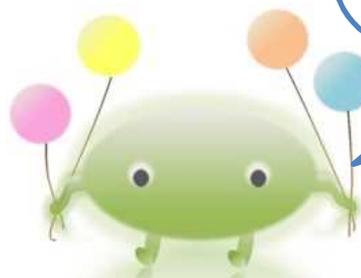
活動中の川や水辺の名称

琵琶湖、瀬田川

活動内容

水辺の清掃活動および環境学習を通じて地域とつながり、マナーを守って安全に水辺を楽しむための情報や琵琶湖の現状について発信する

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①水田生態系 ②環境保全型農業 ③協働

発表内容

小佐治地区では環境保全型農業の効果を研究者と協働で確かめながら進めています。特に冬季湛水活動（冬の水田に水を張る環境保全型農業）は、滋賀県内において小佐治で最も盛んに取り組まれており、さらに冬季湛水が水田の生物多様性や川の栄養循環に良い影響を与えていることがわかってきました。そのような小佐治の取り組みを、主体となっている小佐治環境保全部会と総合地球環境学研究所のメンバーらで紹介したいと思います。

活動中の川や水辺の名称

佐治川

活動内容

研究者との協働による水田生態系の再生活動

よいとこ探しキーワード メモ！



10. 日本一のびわ湖を守るご当地キャラ三人衆（五十音順）



あゆむ / マザーレイクフォーラムイメージキャラクター

マザーレイクを旅するさすらいの鮎。のんびり屋で休憩が多い。夢は川にのぼって大きくなることだが、びわ湖で小さく育つのも悪くないと思いつている。好きなものは石に付いた藻。苦手なものは泥



げっすい〜 / 琵琶湖流域下水道イメージキャラクター

流域下水道を守る謎の妖精。水をきれいにすることが好きで、琵琶湖から日本中へと旅して回っています。

泳ぐことや掃除・洗濯が得意です。苦手なものはてんぷら油。



ちっすいくん / 流域治水政策イメージキャラクター

流域治水の申し子。腰についている4つの玉は、水害から身を守るための4つのアイテムで、「ながす」・「ためる」・「そなえる」・「とどめる」と呼んでいます。

だいたいホワっと、たまにはピリッと、みんなと一緒に考えてみんなを見守る水防災の妖精。

水防災の妖精だけに、大好きなのは耐水性の気持ちに切り替わる瞬間の眩しさ。いまは扁平でも、出すとこ出して魅惑のマーメイドになるのが夢。

MEMO 欄

LINE ご当地スタンプ できました！



フォーラムマザーレイク

日本一の琵琶湖を守るご当地
キャラ大集合♪

マザーレイクを旅するさすらいの鮎「あゆむ」、流域治水の申し子「ちっすいくん」、滋賀の流域下水道を守る謎の妖精「ちっすい〜」の3人組参上！☆We Love 滋賀・びわ湖会

¥120

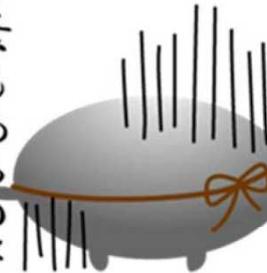
プレゼントする

購入する

電車 止まっている



言葉もあるのよ



流しきれない

「あゆむ」「げっすい〜」「ちっすいくん」
滋賀県のゆるキャラ3体を集めたLINEスタンプが
できました！

マザーレイクフォーラム運営委員会（琵琶湖政策課）、下水道課、流域治水政策室が創り出した超マイナー滋賀県ゆるキャラたちがあなたのLINEで使えます！

価格は120円！



苦手



びわ湖

なう

しかも、売り上げはマザーレイクフォーラム基金への寄付！

琵琶湖のために活動する人たちの資金として活用されます！

ぜひ入手してね！

行ってきま〜す



迷った



三方よし

そなえあれば
うれしいなし

